

科目「現代文A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	現代文A	単位数	3単位	学年・学科	3学年全学科
使用教科書	『新編現代文A』（第一学習社）				
副教材等	『国語必携 ライトパーフェクト演習』（尚文出版）、総合文字力（尚文出版）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	① 近代以降の様々な文章、特に随筆・小説などを読み、我が国の言語文化に対する理解を深める。 ② 生涯にわたって読書に親しむ態度を育てること、多様な文章や考えに触れることをねらいとする。 ③ 国語の向上を図る態度や、言語文化の継承と創造の担い手となる資質を涵養する。
学習の到達目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、国語の能力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
取得可能な資格	特記なし。但し、日本漢字能力検定2級以上取得をした者には増加単位を与える。
授業を受ける心構え	授業には意欲的に取り組み、始業5分前には教科書やノートの準備をし、授業を「聞く」姿勢を整えておく。また、提出物は必ず期限を守って出す。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	・随想「なぜ、“コロンブスの卵”を描くのか」（福田哲夫） ・小説「相棒」（内海隆一郎） ・評論「数え方で磨く日本語」（飯田朝子）	・随想を読み、筆者の考えに触れることで、発想の面白さに気づく。 ・小説に描かれた世界に触れることで、豊かな情操を養う。 ・評論文を読み、筆者の考えを理解し、自身の生活について考える。	・一斉授業(座学) ・読書案内	中間考查 学期末考查 提出物
9 10 11 12	・評論「コミュニケーションの文化」（平田オリザ） ・随想「出島のチューリップ」（吉田直哉） ・小説「山月記」（中島敦）	・評論文の特徴を知る。本文やまわりの具体例を通してコミュニケーションの在り方について考える。 ・随想を読み、筆者の思いを理解し、自らの生活について考える。 ・山月記を読んで、人間誰もが抱える内面の苦悩に触れ、自身の生き方について考える。	・一斉授業(座学) ・読書案内	中間考查 学期末考查 提出物
1 2 3	・小説「山月記」（川上弘美）		・一斉授業(座学) ・読書案内	学年末考查 提出物

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
・近代以降の様々な文章や文体に触れ、我が国の言語文化に対する理解を深め、読書に親しむ。 【定期考查・提出物・出席状況・授業態度】	筆者の考えに対する自分の思考を深め、授業での学習事項を基本として、自らの考えや意見を表現する創造的な能力を身に付けている。 【定期考查・感想文（初発の感想を含む）・授業態度】	基礎的・基本的な「文章を読むための要点」を身に付け、筆者の主張や文章の要旨を的確に読み取る。 【定期考查・授業態度】	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字などを理解し、国語学習の基本的知識を身に付けている。 【定期考查・提出物】

4. 評価の規準(評価の観点については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	25	10	15	20	70	学習到達度の確認
提出物等	5	5		10	20	予習・復習の確認
授業態度・発表	2		5		7	取り組む姿勢
出席状況	3				3	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「世界史A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	地理歴史（世界史A）	単位数	2単位	学年・学科	3学年 全学科
使用教科書	世界史A（東京書籍）				
副教材等					

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	現代世界の基本的な構造とその変動について歴史的観点から把握する。
学習の到達目標	歴史的思考力を培い、国際社会で主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
取得可能な資格	なし
授業を受ける心構え	諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら現代の諸課題を歴史的観点から考察する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	序章 古代文明の成立 1章 ユーラシアの諸地域世界 2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ 3章 大西洋世界の変容とその波及	・人類の誕生から古代文明の成立までの背景や流れ・人類や文明の区分を理解する。 ・ユーラシア一帯の地域ごとの歴史の流れや国家成立の背景を理解する。 ・アジア諸帝国の繁栄と衰退、十字軍派遣以降のヨーロッパの繁栄と社会への影響を理解する。 ・市民革命などの影響と、欧米の海外進出やそれに伴うオスマン帝国の衰退について理解する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	中間考查 学期末考查
8 10 11 12	4章 産業社会の拡大と成熟 5章 アジア諸国の変貌と日本 6章 帝国と民族の時代 7章 二つの世界大戦の時代	・ウィーン体制後の自由主義とナショナリズムの展開を理解し、帝国主義の展開による世界への影響を理解する。 ・二つの大戦の原因と経過、結果を理解する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	中間考查 学期末考查
1 2 3	8章 冷戦と民族独立の時代 9章 グローバル化のなかの危機 終章 21世紀に生きる	・冷戦体制の成立と第二次大戦後のアジア・アフリカの民族独立や紛争について理解し、冷戦後のグローバル化や地域統合の動きを理解する。 ・冷戦後の世界でおこった地域紛争の歴史的背景について探求し、今後どうするかを考察する。	・一斉授業(座学) ・新聞・ICT等による資料・画像の活用	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追求しているか。 【授業態度, 提出物, 出席状況】	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察しているか。 【考查, 授業態度, 提出物】	近現代史を中心とする世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 【提出物】	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な知識を身に付けているか。 【考查】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	10	20		40	70	学習到達度の確認
提出物等	10	5	5		20	予習・復習の確認
授業態度・発表	3	2			5	取り組む姿勢
出席状況	5				5	授業参加意欲
競技会・資格取得					0	目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「数学A」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

科目	数学A	単位数	2単位	学科・学年	3年数学選択者
使用教科書	改訂版 新 高校の数学A (数研出版)				
副教材等	改訂版 ポイントノート数学A (数研出版)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	筋道を立てて論理的に考える習慣を身に付け、情報化社会の中でたくましく活躍していこうとする態度が育てられ、数学の学習の必要性が認識できる。
学習の到達目標	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
取得できる資格	なし
授業を受ける心構え	就職・進学に関わらず、現代社会を生きていくのに必要な知識・思考力等を身に付けるための基本的な科目であることを念頭に置き、積極的に授業に取り組む。

2. 計画

月	学習内容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	1章 場合の数と確率 順列・組合せ 確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査
9 10 11 12	2章 図形の性質 平面図形 空間図形	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査
1 2 3	3章 整数の性質	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。	教科書 問題演習	定期考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は方法	数学的な見方や考え方 【 】は方法	数学的な技能 【 】は方法	知識・理解 【 】は方法
場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。 【授業態度、発表、ノート等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 【発表、ノート、提出物等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 【発表、ノート、提出物、平常・定期考査等】	場合の数と確率、図形の性質または整数の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。 【発表、ノート、提出物、平常・定期考査等】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	項目間の比率 (%)	その他
定期考査・平常考査	5	20	20	25	70	学習度の確認
提出物等	2	4	2	2	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	3	6	3	3	15	取り組む姿勢
出席状況	5	0	0	0	5	欠席理由の明確化
資格・検定試験					0	目標到達度評価
					100%	

科目「生物基礎」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年・学科	3学年食品化学科
使用教科書	第一学習社 「高等学校 改訂 新生物基礎」(生基319)				
副教材等	第一学習社 「改訂 ネオパルノート 生物基礎」				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	身の回りの自然や日常生活や社会との関連性を意識しながら、人体を初め生物や生物現象にかかわる基礎的な内容を学ぶ。
学習の到達目標	多様な生物のなかにある生き物としての共通性に気づき、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、生物が社会や地球環境に及ぼす影響を理解し、生命現象に対する興味・関心を高める。
取得可能な資格	特記事項なし
授業を受ける心構え	自分の体や生命現象について、常になぜそうになっているのか疑問を持つ。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考查
4 5 6 7	生物にみられる多様性と共通性・細胞とエネルギー 遺伝子とDNA	・生物の共通性と多様性を学び生命活動とエネルギーの関係について理解を深める。 ・遺伝子の構造およびDNAの複製の仕組みについて学ぶ。	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 中間考查 学期末考查
9 10 11 12	遺伝子の働き 生物の体内環境 体内環境を維持するしくみ	・タンパク質は、DNAの遺伝情報にもとづいて合成され、私たちの体の中で様々な働きをしていることを学ぶ。 ・体内環境を維持するためのしくみを学ぶ。	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 点検 中間考查 学期末考查
1 2 3	生体防御	・私たちの体が病原体の侵入を防いだり体内から排除したりするしくみを学ぶ。	・一斉授業(座学) ・実験(分割)	プリント・問題集 学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
ヒトである自分と、他の様々な生命との共通性や多様性に関心を持ち、自分の体を含めた生命現象について科学的に探求する態度を身に付ける。 【提出物・テスト・発問・授業態度・出席】	細胞を構成する物質、身のまわりの生態系、物質の循環とエネルギーの移動、生態系のバランスと保全、生物の体内環境の維持について、その事物・現象を科学的に考え、判断・表現できる。【提出物・テスト・発問】	さまざまな生物の細胞を用いて、顕微鏡や実験器具を正しく操作できる。また、安全に留意しながら実験を行い、観察を通じて、仮説・検証・考察などの探究活動の手順を行える。【提出物・テスト・発問】	生物のからだのつくり・はたらき・代謝についての基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な知識を身につけている。 【提出物・テスト・発問】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)		15		35	50	学習到達度の確認
提出物等	20			10	30	復習状況等の確認
授業態度・発表	5		5		10	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「 体育 」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	体育	単位数	3単位	学年・学科	全学科3学年
使用教科書	なし				
副教材等	アクティブスポーツ2021				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	体を動かし、爽快感、達成感、他者との連帯感、楽しさや喜びを味わい、体力向上、ストレスの発散、生活習慣病予防等の効果をもたらし、心身両面の健康の保持増進を促す。
学習の到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
取得可能な資格	特記なし
授業を受ける心構え	欠席や忘れ物をする事なく、主体的に授業に出席する。公正な態度で、協力的に動き、行動に責任を持つ。水泳および長距離走は完全実施（補習がある）。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	体づくり運動	○体を動かす、心と体をほぐす、動きを高める	一斉・グループ 個別	ラジオ体操 水泳 球技 補習(水泳)
5	集団行動、ラジオ体操	○集団行動を学ぶ、ラジオ体操を学ぶ		
6	水泳・球技選択	○4泳法に挑戦するとともに、命について学ぶ		
7		○仲間との協力とともに技能を高める		
9	球技選択	○仲間との協力とともに技能を高める。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技 補習(長距離) ロードレース
10	体育理論	○公正、協力、責任、参画の態度を学ぶ。		
11	陸上競技(長距離走)	○運動の持続力、集中力を高め、タイムに挑戦する。		
12	球技選択			
1	体づくり運動	○体力の向上に重点を置き、体力を高めるための運動、実生活に生かせる運動を行う。	一斉・グループ 個別	球技 陸上競技
2	球技選択	○活動計画を立て、実践する。		
3	体育理論			

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康安全を確保して主体的に取り組もうとする。 【授業態度、出席状況】	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間との課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。 【発表、ワークシートレポート】	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身につけている。 【技能テスト・記録測定】	選択した運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法や豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。 【理解度チェック、発表等】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
テスト・測定・提出	10	20	30	10	70	
授業態度・発表	10	5		5	20	
出席状況	10				10	
					100%	

科目「英語表現Ⅰ」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	英語表現Ⅰ	単位数	2	学年・学科	3年農業科・園芸科・畜産科学科・食品化学科・生活文化科
使用教科書	SELECT English Expression New Edition（三省堂）				
副教材等	SELECT English Expression WORKBOOK（三省堂）、コーパス1800（東京書籍）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	英語の構造に気をつけて、文章を書いたり自己表現を行ったりする。
学習の到達目標	1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2. 聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解することができる。 3. 話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えることができる。 4. 言語についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。
取得可能な資格	実用英語技能検定
授業を受ける心構え	授業に積極的に参加し、教材プリントやノートをきちんと仕上げ、提出する。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	言語材料・言語活動	その他・考查
4 5	Lesson 1 自己紹介 Lesson 2 宇宙で食事 Lesson 3 世界へ羽ばたけ Lesson 4 エーゲ海への旅	・あいさつなど自己紹介をする表現 ・世界の様々な食文化を知る ・世界で活躍するスポーツ選手を知る ・旅行をテーマに学習する	・現在形 ・過去形 ・進行形 ・未来表現	1学期中間考查
6 7	Lesson 5 アイドル Lesson 6 祭りだ！ Lesson 7 未来のエネルギー Lesson 8 世界平和	・アイドルをテーマに学習する ・伝統文化やサブカルチャーなどの日本文化 ・新エネルギーと環境問題について ・世界平和をテーマに学習する	・現在完了形 ・現在完了形 ・助動詞 ・助動詞	1学期期末考查
9 10	Lesson 9 美ら海水族館 Lesson 10 未来を拓く Lesson 11 はやぶさ2 Lesson12 不思議な絵	・人気動物をテーマに学習する ・様々な人の生き方を知り自分の生き方を考える ・自然科学をテーマに学習する ・様々な分野の芸術作品をテーマに学習する	・不定詞I ・不定詞 ・動名詞 ・受動態	2学期中間考查
11 12	Lesson 13 ヒエログリフ Lesson 14 私たちの街 Lesson15 書道甲子園	・様々な形で用いられる言語をテーマに学習する ・その土地特有のご当地ものをテーマに学習する ・活躍する高校生をテーマに学習する	・分詞 ・関係代名詞 ・関係副詞	2学期期末考查
1	Lesson16 どれが一番？	・著名な建築物や地理・自然を比較しながら比較級や最上級を学習する	・比較	学年末考查

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
・授業中に積極的に質問したり、答えたりしているか。 ・提出物などきちんと提出しているか。 【授業中の態度】 【提出物】 【出席状況】	・自分の考えや意見を基本的な英語を使って表現できるか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】	・Speaking、Writingの基本的な技能の習得ができたか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】	・基本的な単語・例文を暗記でき、簡単な内容の英文を書けるか。 【定期考查】 【プリント・ノート】 【提出物】 【授業中の態度】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考查(平常)	10	20	20	20	70	学習態度の確認
提出物等	10	0	0	0	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	10	0	0	0	10	取り組む姿勢
出席状況	10	0	0	0	10	欠席理由の明確化
競技会・資格取得	プラスα	プラスα	プラスα	プラスα	プラスα	目標到達度評価
					100%	

科目「課題研究」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

教科(科目)	課題研究	単位数	2単位	学年・学科	3年 畜産科学科 生活文化科
使用教科書	食品製造、食品化学、微生物利用(実教出版)、自学科の専門科目教科書など				
副教材等	各種HP掲載の参考資料を使用することあり。クロムブック利用による資料作成				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農業(食品製造および食品科学)に関する課題を自ら設定し取り組む科目。課題解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の進化や総合化等、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
学習の到達目標	農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
取得できる資格	特になし
授業を受ける心構え	1)計画、準備、評価、改善は各自で行い、テーマ目標に到達へ向けての取り組みとする。 2)「答え(改善策)」を自らの行動力と判断力で見出し、意欲的な態度となるよう次へ繋げる。

2. 学習指導計画

月(数)	学 習 内 容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	・テーマ設定 ・年間計画立案 ・「食品製造」 基礎・基本実習 ①製菓 ②製パン	★探究学習の意義と目標を知る 計 画 ※記録簿記入・提出・点検 ↓ ↑ 実 践 ↓ ↑ 基礎・基本実習：製菓 検 証 ↓ ↑ 基礎・基本実習：製パン 考 察	説明・確認 個別学習 実習 レポートまとめ	知識理解度確認 ・平常考査 ・実習レポート (記録簿)
9 10 11 12	・テーマ確認 ・テーマ学習の実践 「食品製造」 各班各テーマによる 基本実習の利用 ・実践 ※報告書作成準備(卒業論文)	★探究学習の意義と目標を知る 「PDCA」サイクル実践を再確認する。 計 画 ※記録簿記入・提出・点検 ↓ ↑ 実 践 テーマの探究と調査研究 ↓ ↑ 調査⇒実習 検 証 ↓ ↑ ⇒改善⇒結果 考 察	説明・確認 個別学習 実験・実習 レポートまとめ 次への調査研究 実践実習 クロムブック利用	知識理解度確認 ・平常考査 ・実習レポート (記録簿) ・報告書①
1 2	まとめ ※報告書作成・最終提出 (各科卒業論文)	報告書作成(各学科卒業論文) ※卒業論文最終提出	個別学習 まとめ クロムブック利用	知識理解度確認 ・平常考査 ・報告書②

3. 評価の観点と方法【 】は方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食品製造(製菓製パン)に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	食品製造・食品科学に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎・基本的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【平常考査・授業態度・レポート】	食品製造・食品科学の各分野に関する基礎的・基本的な技術に身に付け、食品に関する諸活動を総合的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	食品製造・食品科学の各分野に関する基礎的・基本的な知識に身に付け、総合的な食品製造の意義や役割を理解している。 【平常考査・レポート】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)				30	30	学習到達度の確認
提出物等(卒論)		10		10	20	計画・まとめの確認
授業態度・発表	5	10	20		35	取り組む姿勢
出席状況	15				15	授業参加意欲
100%						

科目「総合実習」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生
徒用

教科(科目)	総合実習	単位数	4単位	学年・学科	3年 食品化学科
使用教科書	食品流通(実教出版)、食品製造(実教出版)、食品化学(実教出版)、微生物利用(実教出版)				
副教材等	HP等からの自作資料を提示することもある。クロムブック利用による資料作成				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	様々な農産加工製品の製造技術又は食品化学・微生物に関する実験操作及び進路に関連する各種資格を修得し、自ら課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の進化、総合化を図ると共に、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。 ※ PDCAサイクル習得、KSH事業に関係する内容として学習・まとめ・発表を目指す。
学習の到達目標	実験実習の知識・技術を生かしテーマ別に独自の展開を実践する。(80%を目標値。)
取得できる資格	特になし
授業を受ける心構え	1)計画、準備、評価、改善は各自で行い、テーマ目標に到達へ向けての取組みとする。 2)「答え(改善策)」を自らの行動力と判断力で見出し、意欲的な態度となるよう次へ繋げる。 3)清楚な服装、学ぶ者としての準備は、最低限のルールと意識し、進路実現に繋げる。

2. 学習指導計画

月(数)	学 習 内 容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 (12)	・テーマ設定 学期計画立案	計 画 ※記録簿記入・提出・点検 ↓ ↑	説明・確認 一斉学習	
5 (12)	・テーマ学習の実践 ●専攻別分野	実 践		
6 (16)	・食品製造作品製作 製菓・製パン・農産加工	↓ ↑ 実習：製品開発製造 検 証 実験：テーマ別実験	グループ学習・調査 実習・実験	学期末考査
7 (16)	・資格取得 ・実験(食品化学・微生物)	↓ ↑ 資格取得学習 考 察 地域特産品による製品開発		知識理解度確認
	・地域おこし			
9 (16)	・テーマ確認 ・学期計画立案	計 画 ※記録簿記入・提出・点検 ↓ ↑	説明・確認 一斉学習	
10 (16)	●専攻別分野 ・食品製造作品製作	実 践		
11 (12)	製菓・製パン・農産加工	↓ ↑ 実習：製品開発製造 検 証 実験：テーマ別実験	グループ学習・調査 実習・実験	学期末考査
12 (12)	・資格取得 ・実験(食品化学・微生物)	↓ ↑ 資格取得学習 考 察 地域特産品による製品開発	グループ学習・調査 実習・実験	報告書 知識理解度確認
	・地域おこし ※最終報告書作成・提出			
1 (8)	まとめと発表 (科目「農業情報処理」を利用)	プレゼン準備と概要作成 プレゼン実施	一斉授業 (農情にて)	学期末考査 最終報告書
2 (12)	※報告書作成・提出	報告集作成 ※報告書(完成版)提出	(グループまとめ)	知識理解度確認

3. 評価の観点と方法【 】は方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
総合的な食品製造・化学・微生物・資格に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	総合的な食品製造・化学・微生物・資格に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎・基本的な知識と技術を基に、食品全般に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	総合的な食品製造・化学・微生物・資格の各分野に関する基礎・基本的な技術を身に付け、総合的に諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	総合的な食品製造・化学・微生物・資格に関する基礎・基本的な知識を身に付け、総合的な食品製造・化学・微生物・資格の意義や役割を理解している。 【考査、レポート】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)				30	30	学習到達度の確認
提出物等(卒論)		10		10	20	計画・まとめの確認
授業態度・発表	5	10	20		35	取り組む姿勢
出席状況	15				15	授業参加意欲
競技会・資格取得						目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「 農業情報処理 」シバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	農業情報処理	単位数	1単位	学年・学科	3学年 食品化学科
使用教科書	農業情報処理 改訂版 実教出版				
副教材等	日本情報処理検定過去問題集（印刷して配布）				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	目的や条件に合わせて各種の情報の価値を判断し、情報の収集・分析・統合・加工・発信などの方法や手段を選択できる力を身につける。また、授業で学んだ技術等を生かし、表計算やプレゼンテーション検定などの資格取得を目指す。
学習の到達目標	社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させ、情報に関する知識と技術を習得させるとともに、農業情報および環境情報を主体的に活用する能力を育てる。
取得可能な資格	表計算3級（クラス受験）、準2級、2級 プレゼンテーション検定3級 ※希望者のみ
授業を受ける心構え	前向きな気持ちで授業に臨み、指示等をよく聞くこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	情報社会のモラルとセキュリティ ・情報処理検定（表計算） 3級受験	・高度情報化社会のモラルを守る心構えを身につける ・情報化への対応を理解する 【セキュリティ対策・情報の取捨選択】 ・情報処理検定（表計算）に向けた実技練習	・一斉授業 ※個別に対応 ・	中間考査 学期末考査
9 10 11 12	情報通信ネットワーク パワーポイントの基礎 アニメーションの利用 プレゼンテーションの基本	・情報通信ネットワークの概念を理解する ・情報通信ネットワークの種類と特徴を理解する ・文字の大きさ、図形の加工、グラフの作成方法を理解する。 ・プレゼンテーション作成検定試験の範囲である画面の切り替え、アニメーションの応用方法の習得。 ・専攻学習まとめプレゼンテーション作成	・一斉授業 ※個別に対応。 ・Chromebookの「スライド」を活用して専攻まとめのプレゼン作成	中間考査 学期末考査
1 2 3	情報のセキュリティ管理	・情報システムの危険性と情報管理対策 ・専攻学習発表	・一斉授業	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
情報に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	情報に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、社会の一員として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	パソコンに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、情報に関する技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報の意義や役割を理解している。 【考査、レポート】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		20	10	30	60	学習到達度の確認
提出物等		5		5	10	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5		15	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
競技会・資格取得			5		5	目標到達度評価(+α)
					100%	

科目「食品製造」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

教科(科目)	食品製造	単位数	3単位	学年・学科	3年 食品化学科
使用教科書	食品製造 (実教出版)				
副教材等	市販の参考書・HP掲載内容を利用すること有り。クロムブック利用による実践確認				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	食品「製造」について学習させる科目である。穀類、野菜、果実及び畜産物の加工品について原料の特性や製造の原理を学び、各種の食品製造に応用できる体系的な知識と技術を習得させる。
学習の到達目標	食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
取得できる資格	特になし
授業を受ける心構え	1)教科書、ファイル、ノート、クロムブック、実習服などの準備。 2)食品製造者(生徒)としてすべてに責任と自覚を持って実習に望むこと。 3)報告書や記録を必ず行い、求められた提出物を確実に出すこと。 4)体調管理・時間厳守・服装・態度を整え、前向きな気持ちで授業に臨むこと。

2. 学習指導計画

月(数)	学 習 内 容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	食品製造の意義や食品衛生の目的を学ぶ。 第3章 食品の変質と貯蔵 第6章 農産物の加工 1 穀類の加工 2 豆類・種実類の加工 4 野菜類の加工 第8章 発酵食品の製造	食品製造の意義や食品衛生の目的を再確認させる。 食品の変質や貯蔵法について理解させる。 各原料の種類や特徴を理解させる。 加工品の製造を理解させる。 ・パウンドケーキ、シフォンケーキ ・豆腐、味噌 ・ケチャップ、ピザ	一斉授業 一斉実習 クロムブックによる調べ学習 個別・グループ実習	中間考査 知識理解度確認 学期末考査 知識理解度確認
9 10 11 12	第4章 食品加工と食品衛生 第6章 農産物の加工 1 穀類の加工 2 豆類・種実類の加工 4 野菜類の加工 第7章 畜産物の加工 1 肉類の加工 2 牛乳の加工 第8章 発酵食品の製造 第5章 食品の包装と表示	食品衛生の重要性や食中毒、食品添加物について理解させる。 各原料の種類や特徴を理解させる。 加工品の製造方法を理解させる。 ・和菓子製造(あん作りとどら焼き) ・あんぱん ・肉加工品製造(ベーコン・ソーセージ) ・漬物、ヨーグルト 食品包装の目的や食品表示制度について理解させる。	一斉授業 クロムブックによる調べ学習 一斉実習 個別・グループ実習	中間考査 知識理解度確認 学期末考査 知識理解度確認
1 2 3	農畜産物の加工を学ぶ。 ・製造実習のまとめ	各原料の種類や特徴を理解させる。 加工品の製造を理解させる。	調べ学習 個別実習	学年末考査 知識理解度確認

3. 評価の観点と方法【 】は方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食品製造に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【提出物等、授業態度・発表、出席状況】	食品製造に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、食品製造に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、提出物等、授業態度・発表】	食品製造の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、食品製造に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	食品製造の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食品製造の意義や役割を理解している。 【考査、提出物等】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		1 5		4 5	6 0	学習到達度の確認
提出物等	5	5		5	1 5	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5		1 5	取り組む姿勢
出席状況	1 0				1 0	授業参加意欲
					1 0 0 %	

科目「食品化学」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	食品化学	単位数	3単位	学年・学科	3 学年 食品化学 科
使用教科書	なし				
副教材等	実教出版「食品化学」、自作プリント、HP等の内容を引用することもある。(クロムブック利用あり)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	食品の分析と検査に必要な知識と技術を習得させ、食品の成分と栄養を理解させるとともに、食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。
学習の到達目標	食品の成分分析と検査に必要な知識と技術を習得させ、食品の成分と栄養的価値を理解させるとともに、食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。
取得可能な資格	特になし
授業を受ける心構え	・教科書、ファイル、ノートを忘れないよう準備すること。 ・安全第一で実験を行い、危機意識をもつこと。 ・指示・内容をよく理解した上で実験を行うこと。 ・レポートや記録を必ず記入し、提出物を出すこと。 ・前向きな気持ちで授業に臨むこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4 5 6 7	第4章 食品の成分分析 7 無機質 5 脂質	・基本的な実験操作を身につけさせる。 ・灰分とその定量法を理解させる。 〈実験〉直接灰化法 ・脂質成分の抽出法を理解させる。 ・脂質の定量法を理解させる。 〈実験〉ソックスレー抽出法	一斉授業(座学) グループ実験	中間考査 学期末考査
9 10 11 12	第4章 食品の成分分析 5 脂質 4 タンパク質 6 炭水化物 7 無機質 8 ビタミン 9 その他の分析	・基本的な実験操作を身につけさせる ・脂質の化学的性質を理解させる。 〈実験〉酸価の測定、ヨウ素価の測定、ケン化価の測定、過酸化値の測定 ・タンパク質の性質を理解させる。 ・タンパク質の定量法を理解させる。 〈実験〉セミクロエルダール法 ・還元糖の定量法を理解させる。 〈実験〉ソモギー変法 ・ビタミンCの特性を理解させる。 〈実験〉ビタミンCの定性 ・食品製造にかかわる、各種の物性的な測定法を身につける。 〈実験〉官能検査	一斉授業(座学) グループ実験	中間考査 学期末考査
1 2 3	第5章 食品の衛生検査 1 食品衛生検査の意義 5 食品添加物の検査	・食品衛生の目的、必要性を理解する。 ・食品衛生検査の項目と条件について理解する。 ・食品添加物の役割を理解する。 〈実験〉ペーパークロマトグラフィー	一斉授業(座学) グループ実験	学年末考査

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
食品化学に関する諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【提出物等、授業態度、出席状況】	食品化学に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、食品化学に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、提出物、授業態度】	食品化学の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、食品化学に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	食品化学の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食品化学の意義や役割を理解している。 【考査、レポート】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		20		40	60	学習到達度の確認
提出物等	5	5		5	15	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5		15	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
					100%	

科目「微生物利用」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校生徒用

教科(科目)	微生物利用	単位数	2単位	学年・学科	3年 食品化学科
使用教科書	微生物利用(実教出版)				
副教材等	HP等からの自作資料を提示することもある。(クロムブック利用あり)				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	食品に関連する微生物の利用と培養に必要な知識と技術を習得させ、微生物の特性を理解させるとともに、農業の各分野で微生物を利用する能力と態度を育てる。特に微生物のバイオテクノロジー関連を取り扱うにあつたての知識と応用実験操作能力を育てる。
学習の到達目標	微生物の知識と微生物実験の操作を習得すること(知識・満足がおおむね80%を目指す)
取得できる資格	特になし
授業を受ける心構え	1) 毎時間ごとの記録と評価を行い、次回の授業への繋がりとする。 2) 「食品」に関係する微生物の機能を知り「食品製造」に生かせる知識を身につける。

2. 学習指導計画

月(数)	学 習 内 容	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	微生物の代謝と酵素 ※微生物の代謝と発酵	各種発酵・代謝の仕組みとその利用を知る。 有機酸発酵 代謝のメカニズム	一斉授業	
5	バイオ関連産業における 新たな微生物利用	微生物の酵素の性質・種類・利用を知る。 関連産業での微生物利用を知る。	グループ実験 観察・まとめ	中間考査 知識理解度確認
6	※酵素の働き (アミラーゼ・プロテアーゼなど)	固定化生体触媒を知る。	一斉授業	
7	※固定化生体触媒	※微生物改良による物質生産 ※酵母バイオリクターの調製、発酵実験 アルコール蒸留方法の体験	グループ実験 観察・まとめ	学期末考査 知識理解度確認
9	微生物利用の実践 ①甘酒(米麴の利用)	甘酒の製造法を知る。	一斉授業	中間考査 知識理解度確認
10	②抗菌性物質の検索	抗菌力測定を知る。(わさび・カラシ)		
11	③バイオエタノールの製造	バイオエタノールの製造法を知る。	グループ実験 観察・まとめ	学期末考査 知識理解度確認
12	④ぬかみそ漬	ぬかみそ漬の製造法と管理を知る。		
12	微生物利用の実践(課題実験) ※project学習	テーマを設定 実験の実施 報告書作成		PDCAサイクルの実践
1	微生物利用の実践(課題実験)	クロムブックでの報告書提出	一斉授業	学年末考査 知識理解度確認
2			実験・まとめ	

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は方法	思考・判断・表現 【 】は方法	技能 【 】は方法	知識・理解 【 】は方法
微生物利用に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	微生物利用に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、食品製造に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	微生物利用の分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、食品製造に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	微生物利用の分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食品製造の意義や役割を理解している。
【授業態度、出席状況】	【考査、レポート、授業態度】	【授業態度・発表】	【考査、レポート】

4. 評価の規準

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		20		40	60	学習到達度の確認
提出物等		10		5	15	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5		15	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
					100%	

科目「食品流通」シラバス

熊本県立菊池農業高等学校 生徒用

教科(科目)	食品流通	単位数	2単位	学年・学科	3学年 食品化学科
使用教科書	新版 食品流通(実教出版)				
副教材等	市販の参考書・HP掲載内容の引用や、クロムブックの利用も有り。				

1. 学習を始めるにあたって

科目の特徴	農産物を主とする食品の流通に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と流通構造を理解させるとともに、食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度を育てる。
学習の到達目標	基本的な食品の流通機構を理解し、食品流通に関する課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決する力を養う。また、食品流通の合理的な管理とマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、必要な資質や能力を身に付ける。(80%を目標値とする。)
取得可能な資格	特になし
授業を受ける心構え	1) 学ぶ姿勢として、教科書、ファイル、クロムブックを準備し、提出物は提出期限を守ること。 2) 毎時間ごとの記録と評価を自身で行い、次回の授業への繋がりとして欲しい。 3) 授業の成果としてマーケティング戦略を考え、発表まで行うこと。

2. 学習指導計画

月	学習内容(目次の項目)	学習活動・ねらい	実習・演習	その他・考査
4	食品流通を学ぶにあたって 1) 食品流通とプロジェクト学習	次にことについて理解する。 ・プロジェクトの進め方を復習する。 ・食品流通の学習の目的を理解する。	一斉授業	
5	現代生活と食品流通について 1) 流通の始まりと発展 2) 食品流通の働きと役割	次のことについて理解する。 ・生活と流通・自給自足、市・流通の発展 ・生産と消費・物流、商流、情報流 ・流通と費用・食品流通に求められるもの	一斉授業	中間考査 知識理解度確認
6	経済活動と食料 1) 経済発展と食料消費、食料事情 2) 食生活、食料需給と自給率 3) 私たちをとりまく	次のことについて理解する。 ・経済システム・食料消費・食料生産 ・グローバル化する食品流通 ・日本の食生活・食料需要と農産品貿易	一斉授業 クロムブックによる調べ学習	
7	フードシステム 食品流通のしくみ 1) 食品流通の特徴、しくみ 2) 価格の形成と流通経費	次のことについて理解する。 ・商品、生産、需要の特徴 ・流通経路、担い手(卸売り、小売り業者) ・価格の決定、販売価格の形成	一斉授業 クロムブックによる調べ学習	学期末考査 知識理解度確認
9	おもな食品の流通 1) 米、麦の流通	次のことについて理解する。 ・食品、商品としての特性	一斉授業	中間考査
10	2) 青果物、畜産物の流通	・食品の流通と卸売市場		知識理解度確認
11	3) 加工食品の流通 食品の品質と規格	次のことについて理解する。	一斉授業	
12	1) 食品の品質と安全性 2) 品質と品質保証 3) 規格、表示と検査 4) 食品包装、変質と品質保持	・安全性と信頼性 ・品質保証の必要性、目的と方法、しくみ ・規格、基準、食品添加物の表示 ・包装の意義と目的、包装材、方法、リサイクル	一斉授業 クロムブックによる調べ学習	学期末考査 知識理解度確認
1	食品マーケティング 1) マーケティングとその発展	次のことについて理解する。 ・マーケティングとは何かとその課題	一斉授業 クロムブックによる調べ学習	学年末考査
2	2) マーケティング戦略と実際 食品流通マーケティングの実践 1) 市場調査・環境分析と戦略の策定 2) マーケティングの実践と評価	次のことについて理解する。 ・戦略の手法を理解し、流通計画を立てる ・アイデア整理の方法 ・PDCAサイクルを実践	グループ討議 一斉授業 グループ学習	知識理解度確認

3. 評価の観点と方法

関心・意欲・態度 【 】は評価方法	思考・判断・表現 【 】は評価方法	技能 【 】は評価方法	知識・理解 【 】は評価方法
食品製造(食品流通)に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。 【授業態度、出席状況】	食品製造(食品流通)に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、食品流通に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。 【考査、レポート、授業態度】	食品製造(食品流通)の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、食品製造(食品流通)に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 【授業態度・発表】	食品製造(食品流通)の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、食品製造(食品流通)の意義や役割を理解している。 【考査、レポート】

4. 評価の規準(評価項目については、各教科・科目で検討ください)

評価の観点 評価項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	比率(%)	その他
定期考査(平常)		20		40	60	学習到達度の確認
提出物等		10		5	15	予習・復習の確認
授業態度・発表	5	5	5		15	取り組む姿勢
出席状況	10				10	授業参加意欲
					100%	